

ミニ講座

相談支援について ⑤

相談支援のステップ

インテーク（最初の面談）→アセスメント→支援計画作成→モニタリング

今回は、介護分野での事例で、アセスメントの過程をご紹介します。

2. アセスメント (iii)

5) アセスメントの過程（事例）

Aさん（81歳女性）は夫を6年前になくし、現在までひとり暮らしをされています。

最近家事が困難になったり、物忘れをするようになってきました。そのために、家の中はゴミがあふれ不衛生な状態になり、近隣から民生委員に苦情が寄せられました。

民生委員から地域包括支援センターに相談があり、以下の情報を得ることができました。

- ・ 食事の支度ができなくなってきた、入浴もしていないようだ
- ・ 消費者被害（詐欺、押し売りなど）に遭いそうになったが、民生委員のおかげで回避できた
- ・ 民生委員とAさんの長女Bは連絡を取り合っている
- ・ 長女Bは57歳。大学卒業後23歳のときに結婚し、現在は遠方で生活している。母親Aには生活の援助をしているがこれ以上の金銭的な支援は困難であると思っている（民生委員談）
- ・ 自治会長も心配して時々様子を見に行っている
- ・ 長男Cが半年前から同居しているらしい（未確認）
- ・ Aさんは、長男Cが帰ってきたことは嬉しいと思っている（本人談）
- ・ 長女Bは、弟（長男）Cとのかかわりを拒否している（民生委員談）
- ・ 収入は、国民年金月6万円程度の収入しかない（本人談）
- ・ 家は借家である。家賃は3万円で滞納はない（本人談）

① 事例のポイント1

- ・ここまでの相談者は民生委員
- ・当事者は A さん（高齢者）
- ・相談支援の主幹は、地域包括支援センター
- ・A さんは 81 歳 最近家事が困難になったり、物忘れをするようになったりしてきている
- ・そのために家の中はゴミがあふれていて不衛生である
- ・食事の支度ができなくなってきた、入浴もしていないようだ
- ・消費者被害に遭いそうになったが、民生委員のおかげで回避できたが、今後のことが心配だ

⇒現時点では、一人暮らし高齢者が認知症？を発症し消費者被害に遭いそうになったり、家事が困難になったりしてきたという高齢者の地域生活支援の事例である。

相談を受けた地域包括支援センタースタッフは民生委員と A さん宅を訪問することにしました。訪問により A さんの長男 C が半年前から同居していることを確認しました。

民生委員の話では、長男 C は 30 年以上も前に家出をして音信不通になっていたとのことでした。最近、戻っているような気配はありましたが姿を見るのは今回が初めてとのことでした。

長男 C に話を聞くと、新たに以下のような状況が分かりました。

- ・年齢 52 歳
- ・高校中退で、20 歳の時に家出をする
- ・その後は家とは連絡を取っていなかった
- ・派遣社員として各地を転々としながら生活をしてきた
- ・体調を崩し、半年前にひとり暮らしの母親のところへ転がり込んだ
- ・近所の手前外出できずに、昼間は部屋に閉じこもっていた
- ・カードローン等の負債が 100 万円ほどある
- ・統合失調症と糖尿病を患っているがお金がなく治療できていない